

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4070402138		
法人名	有限会社 笑和		
事業所名	グループホーム 笑和	ユニット名	一ノ庄
所在地	福岡県 北九州市小倉北区泉台2丁目7番19号		
自己評価作成日	平成26年1月18日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

施設ではない「みんなの家」を求め、日々の入居者の「その人らしい生活」を支援している。
--

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/40/index.php
----------	---

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

開設して10年目を迎え、周囲には住宅も増え、リビングからの眺めも変化している。季節に応じて、地域の集会所で開催される「ふれあい市場」にカラオケを持って出掛け、その後の「茶会」でも地域の方々や小学生との交流を楽しんでいる。また、運営推進会議では、成年後見制度に関する情報提供や、災害対策に関する踏み込んだ意見交換も行われ、外部評価や実地指導の報告等、開かれた事業運営がうかがえる。日常の暮らしは、編み物に勤しむ方や裁縫道具を自室に持ち込んでいる方、自身で道具を用意しパズルを楽しむ方等、それぞれの方のペースや習慣を尊重し、自由に過ごしている印象を受ける。介護経験豊かな管理者を中心として、職員それぞれが、日常の心身の変化に寄り添い、医療との密な連携を活かしながら、安心して過ごせる生活環境作りに取り組んでいる。
--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 アーバン・マトリックス 福祉評価センター		
所在地	福岡県北九州市戸畑区境川一丁目7番6号		
訪問調査日	平成26年2月16日	評価結果確定日	平成26年3月27日

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
58 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25,26,27)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	65 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,21)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
59 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20,40)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	66 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,22)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
60 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
61 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:38,39)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:51)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
63 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:32,33)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	70 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
64 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている (参考項目:30)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果					
自 己	外 部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を玄関ホール・事業所2ヶ所に掲示し、常に心がけ、黙読するようにしている。	法人理念のもとに、事業所独自の介護理念と運営方針を掲げている。地域密着型サービスとしての意義をふまえ、「豊かな介護」の提供を念頭に置いている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の方との交流「ふれあい市場」に参加。また、小学生のボランティア。推進会議等で交流は活発である。	季節に応じて、月2回、地域の集会所で開催される「ふれあい市場」に参加し、茶会やカラオケを楽しむ機会がある。この機会を通じて、小学生が気軽に訪れることもあり、交流が広がっている。折り紙教室等、ボランティアの方が来訪する機会もある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	推進会議や地域とのふれあい会にて顔なじみとなり、協力を得ている。相談に対応している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議では毎回現状を報告。利用者様の参加も含め、問題点や要望等を率直にかわし、意見をとり入れている。	運営推進会議は、家族、地域代表、町内役員、民生委員、地域包括支援センター職員等の出席を得て、定期開催されており、時折、入居者の参加を得ることもある。災害対策に関する意見交換や提案を頂き、また、実地指導や外部評価の報告等を行い、忌憚のない意見交換が行われていることが、議事録から確認できる。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市の介護サービス相談員の派遣をお願いし、利用者様の不満や不安の解消に「橋渡し役」として協力を得ている。	ケースワーカーの方との連携や情報共有、また、介護サービス相談員を定期的に受け入れている。制度に関する問い合わせ等、必要に応じて、行政への連絡を行っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関は常に開放している。事故につながる恐れがあると思われる利用者様には職員間で意見を交わし拘束しないケアに努めている。	日中、玄関の施錠は行われていない。身体拘束による弊害や、普通の暮らしの中で想定されるリスクについて、家族とも共有認識を図りながら、より良いケアの実践や安全面での配慮を行っている。また、言葉や対応による抑制についても、スタッフ会議等にて意識付けを行っている。パズルや編み物等、入居者それぞれの方が自身で道具を揃え、自由に過ごしている姿もみられた。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	施設内研修やスタッフ会議、日々の生活の場面などで虐待につながっていないかを話し合い防止に努めている。		
8	(6)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在、制度の利用者はいない。研修を受けたり、入居時にパンフレットを渡し説明している。	現在、制度を活用している方はいないが、外部研修に継続して参加し、内部での伝達が図られている。また、運営推進会議の中での研修報告を通じて、地域包括支援センターからの助言も含め、情報発信を行っている。入居時に、資料を示し説明を行っている。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書を事前に渡し、内容を把握していただき、質問等に応じている。体験入居も実施している。		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情箱の説明をしているが今まで寄せられたことはない。要望や意見はその都度お伺いしている。	入居時に、関係機関の相談窓口や苦情箱の設置を案内している。運営推進会議では、忌憚のない意見交換が行われている。以前は家族会が活動していたが、現在は開催されていない。	
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	運営に関する意見や提案は直接管理者に入ることが多い。個々の内容について検討し、反映させている。	月に1回、ユニットごとにスタッフ会議を実施し、意見や要望を持ち寄り、協議を行っている。職員のアイデアは、室内環境の整備や個別のケアに活かされ、編み物を継続している方のために毛糸集めの呼び掛けも行われている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の勤務態度や実績等を鑑み、適切な評価をしている。働きやすいよう条件を聞き入れる。		
13	(9)	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	職員の採用については特に制限はない。年齢も多様で、職員とのコミュニケーションを図り、職員の能力が発揮できるよう働きやすい環境作りに努めている。	職員の採用にあたっては、人柄や意欲を重視し、年齢や性別を理由とする制限は設けていない。室内装飾や調理等、それぞれの得意分野を発揮し、サービスの向上に活かしている。	
14	(10)	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	理念に人権の尊重を謳っている。日常的に入居者様と良好な関係を結ぶことを心掛けている。	高齢者虐待防止や権利擁護、成年後見制度等の内外の研修機会を設けている。また、職員のストレスケアについても留意している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修が数出来ていないのが現状である。新人職員には経験豊富な職員が指導に当たっており、実務を通して学んでいる。		
16		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	交流会を持ち、施設訪問を行っている。相互の問題点などの意見を交わし、反映させる努力をしている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
17		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居時、ご家族からあらゆる事情を伺い、また入居後も状態を観察、傾聴しながら信頼関係を築き、安心した生活が送れるよう努めている。		
18		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居相談時より、ご家族の介護の悩み、入居後も率直に意見を交わしながら良い関係作りに努力している。		
19		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居時、ご本人、ご家族がホームでの生活の中で何を一番望んでいるのかを伺い、実践に努めている。		
20		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	各入居者様の「できること」「できないこと」を把握し、強制することなく普通の生活を支援している。		
21		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族に面会や外出の機会が多く持てるようをお願いしている。		
22	(11)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	友人・知人の来訪あり。地域へ出向くことにより、新しい馴染みの場所作りもできている。	以前は通い慣れた理・美容院を継続している方もあったが、重度化へと移行している中で、難しくなっている現状がある。編み物等の趣味活動を継続したり、家族との外泊の機会も多く、関係性の継続を大切に捉えている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
23		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	談話の機会を多く設け、常にひとりにはしない努力をしている。入居者様もお互い助け合い、手伝う姿が見られる。		
24		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後も会いに伺ったり、現在も身寄りのない方の身のまわりの世話を継続し、入居時と同様のお付き合いをしている。ご家族からの相談もある。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
25	(12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員は常々利用者様の悩み、要望がストレートに口にする関係作りに努めている。困難な場合、ご家族に相談する。	日常の中で、言葉や表情、仕草等から、思いや意向を推し測るように努めている。管理者をはじめ、個々の職員が持つ情報量は多く、日常の関わりがうかがえる。	家族や職員等、それぞれが持つ情報を集約し、共有を図っていくことや、新たな視点を確保することで、様々な視点からのアプローチや客観的な根拠を基にした支援に結び付けていくことが期待されます。
26		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	生活歴を把握し、今まで「やっていたこと」「行っていた場所」をホームの生活の中に取り入れ、今までの生活が少しでも維持できるよう努めている。		
27		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個々の心身状態に合わせた生活を支援している。強制することなく自由に過ごしていただくことも大いにある。		
28	(13)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	定期的に見直し、また状態変化により適時介護計画を変更している。その際、家族ドクターの意見も反映し作成している。	本人、家族の意向を踏まえ、医師の意見も参考にしながら協議を行い、介護計画を作成している。本人の持てる力の活用や家族の役割等も盛り込まれている。支援経過が詳しく残され、毎月のモニタリング等を通じて、現状の確認と見直しの必要性について検討を行っている。	
29		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録、連絡ノート、ヒヤリハットなどで情報を共有し、介護計画の見直しを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	経営者が介護職員として現場に入っており、直に状況が把握できる。要望により柔軟に対応している。		
31		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近隣の利用者様には行きつけの病院、美容室を利用している。介護相談員、ボランティア(歌、ヨガ)の方々にも協力を得て、楽しんでいただいている。		
32	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	定期往診あり。その都度個々の状態について報告している。かかりつけ医は本人、ご家族の希望に沿うようにしている。	入居の際に、本人、家族の希望するかかりつけ医について確認している。また、複数の協力医療機関との連携や、定期的な訪問診療も実施されており、適切な医療を受けられるよう支援に努めている。	
33		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師出勤時、状態を報告、相談し日々の健康に努めている。リハビリも行う。		
34		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時、たびたび面会に伺い状態を把握。病院関係者との話し合いの場を持ち、長期入院となった場合はその後の相談にも乗っている。		
35	(15)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	看取りについての事前の確認を書面にし、同意を得ている。ホームとしてはまだ実践はできていない。	入居時に、独自の指針や事前確認書をもとに、重度化した場合や終末期のあり方について、事業所としての方針を説明し、意向確認を行っている。状況の変化に伴い、その都度、確認書をもとに意向を確認し、方針の共有を図っている。	
36		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	職員の応急手当の訓練は定期的には行っていない。緊急の場合は救急車を要請することを基本的に考えている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	緊急連絡網を作成し、体制は整っている。運営推進会議にて議題とし、協力を得ている。防災マニュアルを作成している。	詳細な、独自の災害対策マニュアルが作成されている。年2回、消防の立会いも含む、昼夜を想定した避難訓練を実施し、運営推進会議の中でも、避難場所の適合性や電気系統の確認、緊急連絡網の試行等、活発な意見交換が行われ、地域の理解と協力体制作りに向けて、働きかけを行っている。あらたに、スプリンクラーの設置や防火壁の工事が行われている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
38	(17)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	身体面の羞恥心への配慮だけでなく、個人情報や言葉遣いなど一人一人を尊重した対応を心掛ける。	生活習慣やペースの尊重に努め、個別の暮らしの継続を支援している。権利擁護に関する研修や、日常の中で言葉使いや対応について、気づいた点を話し合い、意識を高めている。	
39		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の会話の中でご本人の思いが言える環境作り、人間関係に努力している。最初から否定することはしない。		
40		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事や起床時間も個々に合わせている。一日の流れの中でも個人のペースを大切に思っ支援している。		
41		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	自立されている利用者様は思うがままにおしゃれを楽しんでいる。自ら判断できない方へは職員が心配りしている。		
42	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	調理は職員が行っている。おやつは手作りで手伝いもある(たこ焼きの具材切り他)。昼食は職員とともに会話しながら食べる。	毎日、入居者とともに近所のスーパーに買い物に出掛け、献立は、栄養士の資格を持つ職員を中心に、嗜好やバランスに配慮しながら決めている。毎週日曜日は刺身を提供し、嗜好品の摂取にも柔軟に対応している。調理の下ごしらえやおやつ作り等に力を発揮してもらう機会もある。	
43		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取を記録。摂取困難者は個々に合わせた形態で提供している。水分もとろみをつけたりゼリーにしたりと工夫し、一定量は摂っていただいている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアを行う。歯磨き後チェックをし指導や介助も行う。定期的に訪問歯科診療も受けている方がいる。		
45	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	日中は全員トイレにて排泄。定時、随時誘導。排泄パターンの把握。表情などを観察し失敗を防ぐよう努力している。	ユニットにより状況は異なるが、自立されている方も多く、個別に応じて声かけや誘導を行い、日中はトイレでの排泄を支援している。表情や仕草等、個別のサインを見逃さないように心掛けている。	排泄状況の確認は回数だけに留まり、必要な方にはチェック表を用い、情報を収集しながら、カンファレンスにて個別のケアについて話し合い、失禁の減少や自立に向けた支援について、共有認識を図っていくことが期待されます。
46		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事や運動を行うよう心掛けている。便秘症の方には定期薬として下剤をいただいている。		
47	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴は週3回、昼間に実施している。個々の状態に合わせて支援している。入浴剤使用などで楽しんでいただく。	各ユニットで交互に入浴日を設定し、入浴に関する留意点や個別の介助方法について研修を行い、個別の支援を行っている。家族や医師との協議により、疾患に応じたシャワー浴の実施等に配慮している。	
48		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	車椅子使用者、体力に乏しい高齢者はベッドやソファーでの休息の時間を持つ。日中の活動にて安眠できるよう支援している。		
49		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員へは薬の内容等が分かりやすいようにファイルしている。また、随時薬においては連絡帳にて理由、薬名、服用方法を記している。		
50		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の得意分野や生活体験を生かした役割や楽しみごとの支援をしている。例：カラオケ、菜園、ドライブ等		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51	(21)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	家族の方との外食、買い物、墓参り、奥様への面会などご家族にも協力を得ている。ホームからは行事として敬老、花見、祭り見物、外食など出かけるが行き先の希望は出ない。	毎日の買い物の同行や、月2回の「ふれあい市場」への参加、入居者の希望に応え、リビングから見える高台まで出かけてみる等、日常的に外出の機会を持てるよう心掛けている。季節の花見や水族館、りんご狩り、温泉施設等の外出行事や、家族との連携による墓参り等に出かけている。	
52		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	買い物へ行った際、お金を渡し支払いをお願いする。個々のお金はご家族により預かっている。		
53		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族、知人からの電話の取り次ぎ、またご本人希望の場合、いつでも使えるようにしている。		
54	(22)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビング、玄関、廊下に季節に合わせた飾りをしている。常に清潔に心がけ清掃。室内は全体的に落ち着いた色調、木の質感を出している。快適に過ごせるよう室温調節も行っている。	食卓やソファ、広い和室等、その時々に応じたくつろぎの場所がある。季節の作品やクッションカバー等、手作りの品も多く、広い廊下や階段スペースの飾りつけも工夫されている。各所の調度品や飾り付けから、開設当初の熱い想いが伝わってくる。	
55		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	一人一人が思うがままに居場所を見つけ寛いでいる。長椅子で気の合った方々で談笑される場面も多い。		
56	(23)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かし、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	今まで使用していた家具、寝具、また飾り物など慣れ親しんできた生活を忘れない安心できる空間作りをしている。	洋室、和室の設定が用意され、生活感のある居室が多い。箆笥や仏壇、趣味の裁縫道具等が持ち込まれ、個人としての居室作りや安心できる環境作りに配慮されている。スプリンクラーの配管が見えないようカバーが施され、細やかな配慮となっている。	
57		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレ、浴室など分かりやすく表示。各居室に表札をかけ、安全を考慮し手すりを畳部屋上り口にも取り付けしている。		